

「建築ライフサイクルDX戦略」について

「建築ライフサイクルDX戦略」の位置づけについて

1. DX戦略策定の趣旨

- 社会経済情勢が大きく変化する中、個別制度の議論に先立ち、建築分野全体の将来像を示す必要があるとして、「建築分野の中長期ビジョン」について検討中。
- 急速に進歩するDXについては、国における取組の方向性を早期に示すことで、民間事業者による個別技術の開発や導入を促すことが重要。
- このため、中長期ビジョンのとりまとめ(R9年2月予定)に先行して、DX WGでの議論の成果を「建築ライフサイクルDX戦略」としてとりまとめ、公開することとする。

2. 今後のスケジュール(案)

- ① パブリックコメント：R8年11月
- ② 公表：R8年11月中

3. DX戦略の位置づけ

- 当面の策定主体はDX WG(池田靖史 主査(東京大学大学院))
(R8年11月公表時点では、DX WGクレジット)
- 今後、機動的(1～2年程度を目安)に更新するための会議体を設置予定

「建築ライフサイクルDX戦略(案)」の目指す姿

1

ライフサイクルを通じた
建物・市街地の最適化

建築情報をライフサイクル全体で活用し、建物の価値を最大化するとともに、市街地の機能・価値を高める。

2

生産性の向上・技術の
民主化・担い手の多様化

AI・ロボティクス等の活用と、人とAI・ロボットの協働により、生産性を向上し、多様な担い手の参画を実現する。

3

新たな価値の創造

建築情報・市街地情報を他分野と接続し、新たなサービス・産業を創出。社会課題の解決と豊かな社会の実現に貢献する。

都市・まちづくり

- ・BIM活用による建物内部・地下街を含めた災害訓練シミュレーションの実現(デジタルツインの実現)
- ・エリアマネジメント高度化

不動産・資産管理

- ・不動産評価の高度化
- ・資産価値の維持・向上
- ・ポートフォリオ最適化
- ・デューデリジェンス高度化

物流・配送

- ・ドローン・ロボットによるドア・ツー・ドア配送の実現
- ・配送ルート最適化(倉庫・拠点の最適配置)

交通・モビリティ

- ・自動運転との連携によるドア・ツー・ドア移動の実現

金融・投資等

- ・投資判断・保険リスク評価等の精緻化(修繕履歴等の建物の状態や災害リスクをより精緻に把握)

福祉・ヘルスケア

- ・建物内外をシームレスにバリアフリー案内が可能
- ・快適な空間利用の促進
- ・見守り・安心の実現

観光・地域活性化

- ・地域資源・既存建物の有効活用
- ・人流に応じた回遊最適化

行政・公共サービス

- ・公共施設の最適配置・運用最適化
- ・BIM・VR等による建物内部・危険箇所の可視化による救援活動の高度化

